

## ファビオ・ボッタッツォ (ギター)

ファビオ・ボッタッツォはジャズ・ギタリスト、コンポーザー、彼の音楽はポストビバップ、アコースティックとモダンジャズの中に位置する。ボッタッツォのギタープレイからはジム・ホール、ジョー・パス、さまざまな影響が感じられるが、絶え間ない発展を常に続けていて、彼自身の個性あるフレージングを持っていることがわかる。サイドマンとしてロック、アルターナティブ、ジャズアルバムを録音し、2007年には、繊細な演奏に定評のあるベーシスト東聡志と、彼のファースト・アルバム”Beginning Blues”を制作した。イタリアと日本を中心に、バンドで、またソリストとして演奏し、仙台の「定禅寺ストリートジャズ フェスティバル」、「新潟ジャズストリート」などにも参加している。ブルーノ・マルコツィ、アマンダ・ティッフィン、セバスティアン・カプテイン、森泰人など、多くのミュージシャンと共演。

ファビオ・ボッタッツォは、1971年、イタリアのパドヴァで生まれた。16歳の時ギターを手にして、すぐに80年代のロックに影響を受ける。1993年から96年まで、イタロ・デ・アンジェリスにジャズギターとハーモニーを師事。この時期、様々なジャンルの音楽を学びながら、録音と演奏活動を続ける。その後、1996年に、ウンブリア・ジャズで開かれたバークリー音楽院のサマースクールに通う。2002年には、3年通った“ユニヴェルシタ・デッラ・ムジカ”でディプロマを取得。その後、ファビオ・ゼッペテッラに師事。パット・メセニー、ウォルフガング・ムースピール、スコット・ヘンダーソン、マイケル・マンリングなどのセミナーに参加。チャーリー・バナコスにも師事。

他の文化、特に日本の音楽に惹かれ、伝統的な曲に個性的ジャズアレンジを加え演奏している。2004年から日本に滞在。サイドマン、リーダーとして出演しながら、音への絶え間ない探求を続けている。

2010年には森泰人、セバスティアン・カプテインとともに自身のオリジナル曲が中心の「It's no Coincidence」を発表、このアルバムが「ジャズ批評」誌で「My Best Jazz Album 2010」の14位に、また収録曲「In un Giorno di Pioggia (ある雨の日に)」は「Best Jazz Melody 2010」の18位に選ばれた。2014年7月に発表された、南アフリカ、オランダ、日本による国際的ジャズユニット a. s. k. のアルバム「Welcoming the Day」に参加。

2012年、木村秀子 (p)、土村和史 (B)、嘉本信一郎 (d)とのカルテット「#11」(シャープ・イレブン)を結成。2018年秋、満を持して、デビューアルバム「Sharp Eleven」を、10月26日から全国発売、全世界配信。11月に発売記念ツアーを、新潟、東京、神奈川、千葉で行う。